



2019年度 大川賞受賞者

受賞理由

チャート構文解析、機能単一化文法等、機械翻訳に関する基盤的な研究開発における多大な貢献

マーティン ケイ博士

現職 スタンフォード大学 名誉教授
ザールラント大学 栄誉教授

学位 Ph.D.(ケンブリッジ大学、2011年)

生年月日 1935年7月31日

略歴 1955年 ケンブリッジ大学トリニティカレッジ 入学
1958年 ケンブリッジ大学 卒業
1958年 ケンブリッジ言語研究ユニット
1961年 ランド研究所 数学部門
1972年 カリフォルニア大学アーバイン校
情報コンピュータ科学科長 教授
1974年 ゼロックス社 パロアルト研究所
1984～2014年
国際計算言語学委員会 会長
1985年 スタンフォード大学 言語学教授
2011年 ケンブリッジ大学博士号を取得

主な受賞歴 1982年 ヨーテボリ大学 名誉博士
1999年 ザールラント大学 名誉教授
2005年 国際計算言語学会 (ACL)
Lifetime Achievement Award
2008年 ジュネーブ大学 名誉博士

著作

ケイ博士の論文は、2010年に発行された「CSLI Studies in Computational Linguistics」に収録された、ダン・フリッキンジャー、ステイブ・オープン編「マーティン・ケイ論文選集：コンピュータ言語学の半世紀」にまとめられている。本書に掲載された一連の論文は、博士論文にかえてケンブリッジ大学に提出されたものである。これを受けて、博士は2011年に博士号を授与された。

- ・「言語学と情報科学」カレン・スパーク・ジョーンズとの共著 (Academic Press, 1973)
- ・「Verbmobil: 対面対話の翻訳システム」(言語情報研究センター一講演メモ)。マーティン・ケイ、ジーン・マーク・ガフロン、ピーター・ノーヴィグによる第73版(1992)、CSLI講演メモ(33)、言語情報研究センター
- ・「翻訳: 言語学的、哲学的視点」CSLI刊行物第221巻、言語情報研究センター

主な業績

マーティン ケイ博士はスタンフォード大学の言語学(名誉)教授であり、長年、ゼロックス社パロアルト研究所の研究者も務められた。博士

は、コンピュータ言語学の基盤的な研究として、チャート構文解析、機能単一化文法、音韻論への有限状態技術の適用などにおいて多くの貢献をされてきた。1958年以来、博士は機械翻訳に断続的に携わり、問題意識を抱きながらその発展に尽力されてきた。博士は、高度な翻訳機能を備えた人工知能の完全な自動化が実現するまで、完全自動型の高品質な機械翻訳は難しいのではないかと考えてきた。

博士は、1955年にケンブリッジ大学トリニティカレッジに入学された。当時、ケンブリッジ大学には言語学課程が設置されていなかった。そのため、博士は現代語・中世語専攻(フランス語、ドイツ語)の学生として同大学に入学された。1958年の最終学期に、博士は、ケンブリッジ言語研究ユニット(CLRU)を運営していたマーガレット・マスターマン博士と出会う。当時のCLRUは、アメリカ国立科学財団の要請で機械翻訳の研究に取り組んでいた。博士がこの研究に強い興味を示す一方、CLRU側も彼の熱意に魅了され、博士はジュニアアシスタントとして研究に参加されることとなった。その頃、ケンブリッジ大学にはコンピュータが1台しかなく、博士はこれにアクセスできなかったという。

博士は、1960年春に招待を受けて、1961年1月から半年の予定でカリフォルニアのランド研究所を訪問された。しかしながら、結局イギリスに戻ることはなく、10年近く同研究所に在籍された。そして、デイビッド・ヘイズ博士がニューヨーク州立大学バッファロー校言語学科の創設に伴い離任した後は、ランド研究所 言語学研究グループ長に就任された。

1972年、ケイ博士はカリフォルニア大学アーバイン校 情報コンピュータ科学科長に就任された。同職を2年務められたのち、ゼロックス社パロアルト研究所 コンピュータ科学研究室のメンバーとなられた。この頃から、博士は、ランド研究所時代に知り合ったロナルド・カプラン博士とたびたび共同研究を行うようになった。この共同研究が、ケイ博士の最大の功績——中でもチャート構文解析と機能単一化文法——のいくつかを生み出す大きな要因となった。

1985年、博士は、スタンフォード大学言語学教授に半期単位で就任された。年間の半分は同大でコンピュータ言語学を教える一方、残る半分はパロアルト研究所に戻って研究を続けられた。パロアルト研究所退任後もスタンフォード大学にとどまり、新たに年間3カ月、ドイツのザールラント大学で教鞭をとられるようになった。そして、1999年、ザールラント大学の名誉教授に就任された。

マーティン ケイ博士は、長年にわたってチャート構文解析、機能単一化文法等、機械翻訳に関する基盤的な研究開発に携わり、多大な貢献をされてきた。ここに大川賞を贈呈し、その功績を称えるものである。